

職員による自己評価

A 環境面

ベッド数について職員間で検討を行い、実際に数を増やすことが出来た。

B 児童への支援内容

日々のプログラムが固定されないよう送迎前の打ち合わせを密に行っている。

C 関係機関との連携

主治医や支援センターとの直接連携を取るのには難しく、保護者を通して行っている。

D 保護者への説明責任・信頼関係

保護者交流会が、コロナ禍のため開催が難しく、書面や電話等で行っていた。

E 非常対応

職員間で非常時対応マニュアルの内容について研修を行い、定期的に避難、誘導時の改善点を検討し共有している。

保護者による評価

A 環境面

コロナ対策の為に園内の様子を伺う機会が少なかったとの声があり、コロナが落ち着き次第、見学の回数や頻度を増やしていく。

B 児童への支援内容

日々の連絡帳で色々なプログラムに参加していることが分かり、その様子がHPや誕生日カードで把握出来ている。

C 事業所からの情報発信

利用児のほとんどに持病がある為、コロナ等の流行性感染症を考慮して交流会や催しを開催するのは自粛した方が良いという声が挙がった。

D 非常対応

非常災害を想定した訓練がどのように行われているのか連絡帳だけで無く職員の方からも情報共有が欲しい。

事業所内での分析

【共通点】

- ・児童への支援内容については、当日の利用児の体調に合わせた活動になるように柔軟に設定することで、参加しやすくした。また、そのプログラム内容をHPや誕生日カード等で保護者に分かりやすく伝えることが出来ていた。

【相違点】

- ・環境面について、ベッド数を増やすことが出来たが今後も利用児の状況や人数に応じて拡充していくことが必要である。
- ・園の見学が少なかった等の意見については、社会の情勢を踏まえ、個々のニーズに合わせた対策が必要である。

分析・検討してみたて…

事業所の強み

- ・送迎車は車イスの利用児に対応した車種、施設内は、段差が殆どなくバリアフリー化に十分な配慮をして、個人に合わせた支援環境を整備している。保護者や学校関係者等の連携を取り、情報や個々のニーズを共有している。

事業所の改善点

- ・コロナ禍で他の児童クラブや保護者同士の連携を取る機会が減少している。
- ・医療的ケアが必要な場合、直接主治医等との連絡が難しく保護者を通して行っている。

事業所の改善への取り組み

- ・流行性感染症(新型コロナウイルス)が落ち着き次第、外部の連絡会等に積極的に出席をする等、関係機関と連携を取っていく。
- ・医ケアの必要な利用児の障害・疾病等を職員が理解し、緊急時でも不備が無いようにする為に保護者からの情報を随時提供して頂ける様、日頃の情報共有を綿密にする。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

保護者から日頃の適切な支援の提供についての高い評価が得られた。今後も事業所内や保護者から頂いた意見や要望を職員一同の課題とし、利用児の皆様が安らぐ場になれるよう整えていきたい。

事業所名 よこはまことり園

担当者 中川 あゆみ